

ライフケアガーデン熱川(別館)

症例概要 入居者氏名：M・O様（90代 女性） 要介護2

病名：高血圧症、両側変形性膝関節症

経過：平成25年4月～平成30年6月

内 容

平成25年4月にご入居、先月（平成30年6月）にライフケアガーデン熱川で看取りをしたM・O様です。

以前、伊東市の有料老人ホームに入居されていましたが、ライフへ相談後入居となりました。娘様の希望は、出来る限り自宅で生活しているような環境で生活ができるような環境と、できればライフケアガーデン熱川で看取りをしてほしいとのことでした。お食事は居室へ提供し、娘様がほぼ毎日来訪されて、おかずなどを持参するなどして、一緒に過ごす時間を大切にされていました。用事がある際にはナースコールで職員を呼び一部介助でお手伝いをし、他は自立された生活を送られていました。今年に入り、徐々に体力も落ちていく中で、食事に見守りが必要ではないか、トイレに座る事が困難になる中で紙下着が必要ではないか、という話し合いが出るようになってきました。娘様と話し合う場を設けた中で、多少危険な状況であっても、自宅にいるような環境を最優先してほしいとの希望があり、それを強く望んでいました。その後、危険な状況が時折みられることもあり、娘様と本人様の考えとライフの介護と看護の考え方に少し差が存在するようになりました。そんな中で、居室担当のSは、日ごろから娘様と本人様とコミュニケーションがとれており非常に信頼されているため、娘様と本人様から今までの生活を詳しく聞き出す事ができました。話を聞いていくと、娘様のご主人のお母様は施設に入居しており、そこでお亡くなりになっていました。施設で最期を迎えた際、家族が側にいてあげられなかった事を悔いているようなお話しをされていました。だからこそ、自分の母親は最後まで自分で看れる事はしたいとの考えがあり、そのことは、ご主人も含め家族みんなが理解してくれているという、お話しもしていただきました。

それからは、娘様の考えとご本人の気持ちを理解し、危険を考慮しつつ、出来る限り自立されていた状態の生活を崩さないようにと、介護と看護一体となって対応していきました。食事は基本居室対応とし、体調の変化が見られる際には食堂にお連れさせていただき事としました。トイレに関しては、2名介助とし座位がとれなくなるまで続けました。最期には食事はできずトイレにもいけなくなりましたが、人生の最期まで自立された生活を送れたのではないかと感じています。

娘様からも、「私は、お嫁にきた手前、母親を自宅で見守る事が出来ずに悩んでいましたが、ここならと思いライフケアガーデン熱川へ入居を決めて本当に良かったです。最期ましっかりと対応していただき、本当にありがとうございました。」と感謝の言葉を頂きました。